

第 145 回 ECM Society

日時：2015年10月30日（金） 17:30-19:30

場所：マスカットキューブ3階 講義室

講師：小田 吉哉 先生

エーザイ（株）執行役員
バイオマーカーユニット プレジデント
千葉大学大学院医学研究科客員教授兼任



演題：製薬業界の苦悩と創薬における バイオマーカー研究

小田先生は、長年エーザイ（株）でプロテオミクスとメタボロミクス等の最先端研究に携われ、現在アンドーバー研究所でプレジデントを務められています。また、JST 戦略的創造研究推進事業「さきがけ」(PRESTO): 「疾患における代謝産物の解析および代謝制御に基づく革新的医療基盤技術の創出」領域の研究総括もお務めになられています。本日は、大変面白い話にご期待ください。個人的にお話をされたい方は、御連絡下さい。

連絡先：分子医化学

大橋 俊孝（7127, oohashi@cc）

参考文献等

1. “Proteome Analysis Technologies Based on Mass Spectrometry for Quantitation, Phosphorylation, and Drug Discovery” Y.Oda, *J. Mass Spectrom. Soc. Jpn.*, 55, 63-75(2007).

2. “Mass spectrometry-based quantitative proteomics” Tatsuji Nakamura and Yoshiya Oda, *Biotechnology & Genetic Engineering Reviews*, 24, 147-164(2007), Editor: Professor Stephen Harding, University of Nottingham, Nottingham University Press, (ISSN:0264-8725), ISBN 978-1-904761-62-4

3. “創薬・タンパク質研究のためのプロテオミクス解析”、編集・小田吉哉、長野光司、実験医学別冊、羊土社(2010)、ISBN978-4-7581-0176-9

4. “特集1 認知症とオミクス解析 4. 薬剤開発におけるバイオマーカー研究” p289-297, Dementia Japan 3 JS DR vol. 27, 2013, *日本認知症学会誌* ISSN 1342-646X

5. PHARM TECH JAPAN, 特別企画 “日米双方向から見た製薬会社におけるバイオマーカー研究と診断薬開発の現状と期待”, p13 (1879) -18(1884), vol. 30, No. 9 (2014)別冊 (株じほう)

6. “11 章ケミカルプロテオミクスによる定量的特異性の評価と標的バリデーション 小田吉哉・山本昇”、生物活性分子のケミカルバイオロジー (標的特定と作用機構) 日本化学会編、化学同人(2015)、ISBN978-4-7598-1379-1

7. Chapter 8 “Recent Progress in the Identification of Non-Invasive Biomarkers to Support the Diagnosis of Alzheimer’s Disease in Clinical Practice and to Assist Human Clinical Trials”, Francois Bernier, Pavan Kumar, Yoshiaki Sato and Yoshiya Oda, Alzheimer’s Disease - Challenges for the Future (Edited by Inga Zerr), ISBN 978-953-51-2137-4, Publisher: InTech, Chapters published July 01, 2015.